

戦評用紙

令和元年度 学校総合体育大会バスケットボール埼玉県予選会

令和元年/6/24

会場 本庄シルクドーム Eコート 第1試合
性別 女 準決勝

対戦カード	埼玉栄高校	12	—	13	正智深谷
TOTAL	80	21	—	6	59
		23	—	22	
		30	—	18	

インターハイ予選準決勝は埼玉栄高校対正智深谷となった。

埼玉栄高校のスタートメンバーは0・1・2・3・7。対する正智深谷高校は4・5・6・7・9。

埼玉栄高校はマンツーマンディフェンス、正智深谷高校は3-2ゾーンディフェンスでスタートする。正智深谷高校は

埼玉栄高校の高さに対してローポストでWチームにいくなど、足をつかってディフェンスをする。また自チームのシュート

が入ったあとは上から2-1-2のゾーンプレスディフェンスに変え、埼玉栄高校のオフェンスにスピードを出させない

ように工夫した。しかし、埼玉栄高校は出だしから0の3Pやコーナーを使って相手のディフェンスを崩し、ゴールを

狙った。出だしはシュートが入っていたが、相手のディフェンスを崩せない時間帯がくるとシュートをなかなか決められ

ずにパスミスから失点をしてしまう。対する正智深谷高校は相手の高さに苦戦するが、4のドライブからの得点などで

12対13で正智深谷高校がリードして第1Qが終わる。第2Qが始まると埼玉栄高校の5の3Pが立て続けに決まり、

一気にリードする。ここで正智深谷高校は前半1回目のタイムアウトを請求する。埼玉栄高校はここで12を交代で入れ

さらに高さで優位にたつ。対する正智深谷高校は相手のディフェンスの前になかなか得点できず得点が開いてしまう。

残り5分のところで正智深谷高校は2回目のタイムアウトを請求するが、埼玉栄高校の流れは止まらず、12が連続

してゴール下シュートを確実に決めていった。正智深谷高校も7のジャンプシュートや4のドライブできっかけを作り、

流れを戻そうとするが、埼玉栄高校がリードしたまま前半終了した。

後半になってもディフェンスは両チーム変わらない。正智深谷高校は9の3Pが出だしで入り、いい形で3Qに入った。

そこで埼玉栄高校は12をコートに戻し、ゴール下を固める。2と12の連続得点や5の3Pで流れを戻した。

正智深谷高校は6も3Pを決めたが、ディフェンスリバウンドを取れずに相手にセカンドチャンスを与えてしまう展開に

なってしまった。56対41で3Qが終了する。4Qになるとお互いが得点を入れあう展開になる。正智深谷高校の6・7が

リングにアタックし、相手のファールを誘うと7が3Pを決め、必死に食らいついていった。対する埼玉栄高校はファール

を多くしてしまうが、要所で0と7が3Pを決めて正智深谷高校の追い上げを振り切ることができた。80対59で埼玉栄

高校が勝利したが、最初から最後まで粘り通した正智深谷高校のベンチメンバーも応援団も保護者も飯野先生も

とても素晴らしかったです。

(記録者: 滑川総合高校 細川)